

岐阜県福祉サービス第三者評価事業評価結果表

平成 30 年 3 月 27 日改正
(平成 30 年 4 月 1 日適用)

①第三者評価機関名

NPO 法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと

②施設・事業所情報

名称：放課後デイサービス虹色SKY	種別：障がい児通所支援	
管理責任者：蔵澄綾介	定員（利用人数）：10名	
所在地：岐阜県可児市川合 2793 番地 24		
TEL：0574-60-3265	ホームページ： https://www.nijinohashi.co.jp/	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：平成 27 年 3 月 1 日		
経営法人・設置主体（法人代表者）：株式会社サーバント（代表者：千住敏晃）		
職員数	常勤職員：4名	非常勤職員 1名
専門職員 (重複あり)	(専門職の名称)	
	保育士 2名	教師 1名
	強度行動障害 2名	名
施設・設備 の概要	(居室数) プレイルーム 1 学習室 1	(設備等) トイレ（男女別）各 1

③理念・基本方針（※転載）

理 念：真を磨き真を貫く。愛を以って動ず。
幸たるは真の人として成長なり。

基本方針：私たちは子どもたちの可能性を信じて、日々の支援に熱い心で全力投球いたします。

<ビジョン> 愛が一番、笑顔が絶えない活気が響きあう。

<私たちの約束事> 一つ、卑怯な振る舞いは一切致しません。
一つ、無理強いは一切致しません。
一つ、ほめて、はげまして、長所を伸ばします。
一つ、常に気配り、目配り、心配りを怠りません。
一つ、あいさつ、返事をきちんとおこないます。

④施設・事業所の特徴的な取組（※評価機関において記入）

株式会社サーバントは本社が可児市にあり、可児市、美濃加茂市、下呂市を拠点に運営している。放課後デイサービス7か所、児童発達支援1ヶ所、短期入所施設1ヶ所、高校通信教育サポート校、こどもリハビリクリニック、ホースセラピーの取組と、法人代表が医療・福祉・教育の三本柱をビジョンにした結果の多機能な事業展開が行われている。

法人顧問には弁護士、司法書士、税理士、社会保険労務士の各種専門職を配置しており、コンプライアンスの体制を万全にしており、特に虐待についての研修に力を入れており、毎月、職員基礎行動自己チェック表で利用者の権利侵害につながる行動を自覚し、権利侵害の防止が徹底されている。

法人全体で取組む夏祭りや年1回のバスを借り切った親子遠足も職員と保護者、保護者同士の交流の機会となっており、子どもたちが社会でのルールを学ぶ活動にもつながっている。

その中であって、虹色SKYは感覚統合支援を目標にした放課後デイサービス事業所である。トランポリンやロッククライミング、ムーブメント、音楽リトミック、ダンス、大型スクリーンによる鑑賞など、多彩なプログラムを用意し、社会のルールを学び、生活のスキルを身に付け、学習の継続と一人ひとりの利用児の可能性を引き出す支援に全力で向き合っている。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	平成30年6月15日（契約日）～ 平成31年2月1日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	今回が初回（平成 年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

（充実したプログラムによる個別支援）

利用者のニーズや地域の実状に合わせ、徐々に事業所の数を増やしてきた法人であり、利用児の特性でサービスを選択でき、複数の事業所サービスを利用できる利点を備えている。

その中で当事業所は感覚統合支援型として、トランポリンやロッククライミング、ムーブメント、音楽リトミック、ダンス等多彩なプログラムを用意し、社会のルールを学び、生活のスキルを身につけ、学習の継続と一人ひとりの利用児の可能性を引き出す支援に全力で向き合っている。

（PDCAで利用児の力を引き出す支援）

集団行動が苦手な子に、一緒にすることを強要するのではなく、他の子が楽しむ様子を見て「自分のやりたい」という自発的行動を引き出す支援をしている。そのための個別支援計画作成が丁寧に行われている。活動の目的、目標、経過等を明確にし、職員間で共有している。

必要なサービスを必要な人に届けたいとする姿勢で、泊りの対応や就労を視野に入れたサービスの継続性を持って展開している。

（保護者や地域との関わりを大切にしている）

法人全体で行う夏祭りは、事業所の最大のイベントであり、地域の商店や関係団体にも呼

びかけ、家族、利用児、職員、関係者、日頃事業所に関わっているボランティアの人が一同に集まり、夏祭りを通して顔の見える関係が出来、交流のきっかけにもなっている。そんな大イベントを業務の合間を縫って手掛けている。

◇改善を求められる点

(組織としての人材育成の取組に期待)

法人として研修参加や資格取得を奨励しているが、職員一人ひとりの力量に差があってもそれに合わせた育成の取組が、管理者に任されている現状にある。まずは職員一人ひとりが自己評価し、目標を立て、定期的に管理者が面会するシステムの構築から取り組まれない。開設当初から毎年事業所数を増やし、ますます組織が大きくなってきている今だからこそ計画を持って総合的な人事管理と個別育成の人材育成の取組に期待したい。

(中長期計画や事業計画の文書化に期待)

中長期計画や経営、人事等は法人代表のトップダウンでスピード感を持って運営が進められ、文書化の作業は後回しになっている。必要な情報や伝達はテレビ会議を通して迅速に対応している点は評価できるが、組織が大きくなればなるほど、事業計画や経営方針等を文書化したもので職員へ周知を図り、定期的に職員の意見や要望等を聞く機会を設け、それを法人全体会議に挙げ運営に反映させていく取組に期待したい。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価をすることによって自分たちの視点とは違った視点での気づきが多くあった。常に新鮮で多くの視点での評価をうけることにより、刺激となり、私たち事業所の成長、スキルアップや留意点など今後に向けて多くの課題が抽出できたと感じております。SKY では常に自己満足での支援にならないよう、利用者、利用者保護者の方の満足、また喜んでいただけるよう課題を以て取り組んでおります。また、困っている方に対し寄り添った支援をしていくためにも今回の第三者評価に対ししっかりと受け止め今後活かしていきたいです。

⑧第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。